

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和市つきみ野計画A棟	階数	地上15F
建設地	大和市下鶴間字甲一号37番4 他	構造	RC造
用途地域	一低層/二種住居、指定なし/準防火地域	平均居住人員	296 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2013年11月18日
敷地面積	2,870 m ²	作成者	荒井建築設計事務所
建築面積	515 m ²	確認日	2013年11月18日
延床面積	6,331 m ²	確認者	荒井建築設計事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レダ-チャート)
<p>BEE = 0.8 ★★☆☆☆</p> <p>S: A: B+: B-: C:</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超</p> <p>標準計算</p> <p>参照値: 建設(青), 修繕(緑), 更新(赤), 解体(黄), 運用(紫), オンサイト(白), オフサイト(黒)</p> <p>室内環境: 100%</p> <p>建築物の取組み: 93%</p> <p>上記+以外の: 93%</p> <p>上記+: 93%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)</p>	<p>Q2 サービス性能: 5</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内): 1.8</p> <p>LR3 敷地外環境: 3.0</p> <p>LR2 資源・マテリアル: 2.8</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q のスコア = 2.7</p> <p>Q 環境品質</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.8</p>
<p>LR のスコア = 3.0</p> <p>LR 環境負荷低減性</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>敷地が住宅街に位置するため、周囲の景観を損なうことなく、極力圧迫感の与えることの無いよう配慮し計画とした。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>国道沿いであることから、住戸のサッシには遮音等級T-2を使用し遮音性に配慮した。外皮性能については日本住宅性能表示基準「省エネI級(対策等級)」における等級3に相当する性能とし、建物の熱負荷抑制に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>建築物移動等円滑化基準を満たすように計画し、バリアフリーに配慮し計画した。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>周囲の景観を著しく損なうことのないよう配慮し、敷地の空地には可能な限り緑化をした。また、共用部のラウンジコーナーから一体の空間となるように植栽を設け、建物内外を連動させる、豊かな中間領域の形成を行った。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>住戸の断熱材について、日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級3に相当する仕様として、建物の熱負荷抑制に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。内装と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に、容易にそれぞれを取り外すことができる。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>地表面被覆材に配慮し敷地外への熱的な影響を低減する計画とした。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される